

一般会計など各会計補正予算は全会一致で可決

党議員団はごみ有料化条例、06年度一般会計決算など6件に反対

1ヶ月にも及んだ9月議会は10月4日、閉幕しました。最終日は震災復興経費を盛り込んだ今年度の各会計補正予算を全会一致で可決しました。日本共産党議員団は、06年度一般会計決算、国民健康保険特別会計決算、介護保険特別会計決算、農業集落排水事業特別会計決算、下水道事業会計決算、ごみ有料化条例の6件に反対、他はすべて賛成しました。

討論では樋口議員が登壇し、06年度一般会計決算などについて反対理由を述べました。06年度一般会計決算について樋口議員は、①合併して2年目の決算だが、合併協定、新市建設計画についての総括がまったくなされていない、②市民の暮らし、労働者の権利をおびやかす行革路線にたって実行されたことなどを理由にあげました。また、注目のごみ有料化条例については、アンケート調査のやり方が正しくないと主張しました。市は1回目のアンケート調査では反対が多かったのが、2回目のアンケートで賛成多数になって市民の理解を得たとしています。樋口議員は、1回目のアンケートは無作為抽出で対象者を選び、2回目は説明会参加者をアンケートの対象にしているが、こうした同一条件でないアンケートは問題があるとのべました。

今議会では中越沖地震対策、自治基本条例策定、佐渡汽船小木ー直江津航路問題に質問が集中しました。党議員団も全力でこれらの問題に取り組んでいきます。

日本共産党上越市議員団ニュース

No.111 2007年10月14日
連絡先 杉本敏宏 524-3787 (東本町5)
樋口良子 544-6802 (中門前3)
橋爪法一 548-3628 (吉川区代石)
事務局長 上野公悦 530-2203 (頸城区中柳町)



記者会見する阿部地区委員長(左端)と樋口、平良木、上野、橋爪、杉本の各氏



土手から白いものがにゅーっと出ていてびっくり。これはサラシナショウマという野の花です。



写真は、自治基本条例素案の検討をする市民会議のみなさん。9月11日撮影。

日本共産党上越市議団は9日夕方、市役所において記者会見し、来春以降の市議団の活動についての考えを発表しました。

この中で市議団は、現在3人となっている議員団を次ぎの政治戦において4人とし、市民のいのちと暮らしを守るために議案提案権の確立をめざしていることを明らかにしました。具体的には、現職の樋口良子(ひぐち・よしこ)議員(旧上越市選挙区定数30)、橋爪法一(はしづめ・のりかず)議員(吉川選挙区定数1)が続投を決意、新たに平良木哲也(ひららぎ・てつや)氏が旧上越市選挙区で、上野公悦(うえの・こうえつ)氏が頸城選挙区(定数2)で勝利をめざします。杉本敏宏議員は勇退します。

現在の市政について党議員団は、「自公政権の下で市民の暮らしがたいへんになっているのに、市民の暮らしを守る役割を十分果たさず、国に追いついた行革路線をとっている」「合併して3年目を迎え、合併協議で事実上宿題扱いとなっている課題をどうするかが問われている」などのべました。

杉本議員は、勇退後も自治体研究活動などで市政にかかわっていくと語りました。

議案提案権を獲得し、市民の暮らしを守る力を強くしたい

…日本共産党上越地区委員会が記者会見